



DHCPv6 リレー ソース設定

- [DHCPv6 リレー送信元の設定の制限事項 \(1 ページ\)](#)
- [DHCPv6 リレー送信元の設定に関する情報 \(1 ページ\)](#)
- [DHCPv6 リレー送信元の設定方法 \(2 ページ\)](#)
- [DHCPv6 リレー送信元の設定例 \(4 ページ\)](#)
- [DHCPv6 リレー送信元の設定に関する追加情報 \(4 ページ\)](#)
- [DHCPv6 リレー送信元の設定に関する機能情報 \(5 ページ\)](#)

DHCPv6 リレー送信元の設定の制限事項

- 設定済みのインターフェイスがシャットダウンされた場合、またはその IPv6 アドレスのすべてが削除された場合、リレーは標準の動作に戻ります。
- IPv6 アドレスが設定されていないインターフェイスを指定しようとする、コマンドラインインターフェイス (CLI) によってエラーが報告されます。
- インターフェイス コンフィギュレーションとグローバル コンフィギュレーションの両方が設定されている場合、インターフェイス コンフィギュレーションが優先されます。

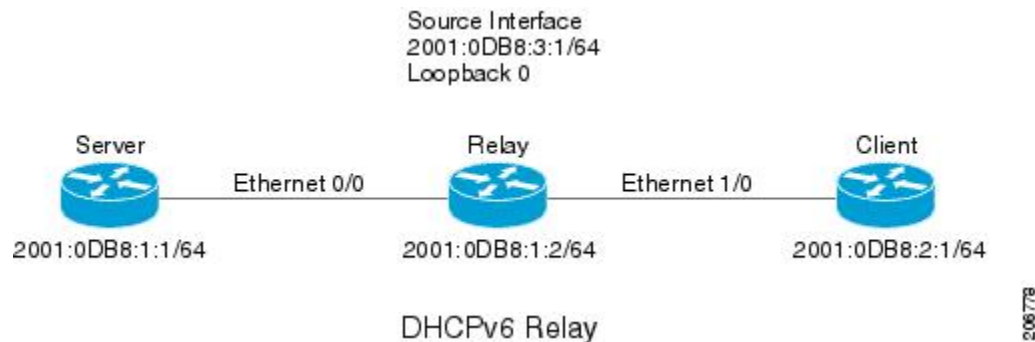
DHCPv6 リレー送信元の設定に関する情報

DHCPv6 リレー ソース設定

DHCPv6 サーバは、応答を中継されたメッセージの送信元アドレスに送信します。通常、DHCPv6 リレーは、メッセージ送信に使用されたサーバ方向インターフェイスのアドレスを送信元として使用します。ただし、一部のネットワークでは、より安定したアドレス（ループバックインターフェイスなど）を設定し、そのインターフェイスを中継されたメッセージの送信元アドレスとしてリレーで使うことが望ましい場合があります。DHCPv6 リレー送信元設定機能には、この機能が用意されています。

次の図に、単一のクライアント、リレー、およびサーバで構成される簡単なネットワークを示します。リレーとサーバは 2001:DB8:1::/64 を介して通信し、リレーには 2001:DB8:2::/64 に対するクライアント方向インターフェイスがあります。リレーには、アドレス 2001:DB8:3:1/64 が設定されたループバック インターフェイスもあります。

図 1: DHCPv6 リレー送信元設定 - 簡単なネットワーク



リレーはクライアントから要求を受信すると、クライアント方向インターフェイス（イーサネット 1/0）のアドレスを `relay-forward` メッセージの `link-address` フィールドに含めます。このアドレスは、サーバによってアドレスプールの選択に使用されます。その後、リレーは `relay-forward` メッセージをサーバに送信します。デフォルトでは、サーバ方向（イーサネット 0/0）インターフェイスのアドレスが IPv6 送信元として使用され、サーバはそのアドレスに回答を送信します。

リレーの送信元インターフェイスが明示的に設定されている場合、リレーはそのインターフェイスのプライマリ IPv6 アドレスを、転送するメッセージの IPv6 送信元として使用します。たとえば、ループバック 0 を送信元として設定すると、リレーは、サーバに中継されるメッセージの IPv6 送信元アドレスとして 2001:DB8:3:1/64 を使用します。

DHCPv6 リレー送信元の設定方法

DHCPv6 リレー送信元の設定

DHCPv6 リレー送信元を設定するには、次の作業を実行します。

インターフェイスに対する DHCPv6 リレー送信元の設定

メッセージの中継時に送信元として使用するインターフェイスを設定するには、次の作業を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface type number 例： Device(config)# interface loopback 0	インターフェイスのタイプおよび番号を指定し、インターフェイスコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	ipv6 dhcp relay source-interface interface-type interface-number 例： Device(config-if)# ipv6 dhcp relay source-interface loopback 0	このインターフェイスで受信したメッセージの中継時に送信元として使用するインターフェイスを設定します。
ステップ 5	end 例： Device(config-if)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

DHCPv6 リレー送信元のグローバルな設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	ipv6 dhcp-relay source-interface <i>interface-type interface-number</i> 例 : Device(config)# ipv6 dhcp-relay source-interface loopback 0	メッセージの中継時に送信元として使用するインターフェイスを設定します。
ステップ 4	end 例 : Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

DHCPv6 リレー送信元の設定例

例：インターフェイスに対する DHCPv6 リレー送信元の設定

次の例で、リレーの送信元として使用するループバック 0 インターフェイスの設定方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface loopback 0
Device(config-if)# ipv6 dhcp relay source-interface loopback 0
Device(config-if)# end
```

DHCPv6 リレー送信元の設定に関する追加情報

標準および RFC

標準/RFC	タイトル
IPv6 に関する RFC	IPv6 RFCs

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html

DHCPv6 リレー送信元の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: DHCPv6 リレー送信元の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
DHCPv6 リレー ソース設定	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	DHCPv6 を使用する一部のネットワークでは、より安定したアドレス（ループバック インターフェイスなど）を設定し、そのインターフェイスを中継されたメッセージの送信元アドレスとしてリレーで使うことが望ましい場合があります。DHCPv6 リレー送信元設定機能には、この機能が用意されています。

